慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アメリカに於けるフリイドリヒ・リスト
Sub Title	
Author	山田, 正夫
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1927
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.21, No.1 (1927. 1) ,p.99- 134
JaLC DOI	10.14991/001.19270101-0099
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19270101-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

更にシイニオア及びスチュアート・ミルの兩者が事實上生産要素三元論者なる點より考ふれば、遡つて佛國のセイの提唱に贊せるならんか。其の何れにしても、ジョン・スチュアート・ミルの時には未だ明確に勞働、土地（若くは自然的働因）及び資本の三者が生産の要素と認められなかつたこと丈けはエッヂヲース、キャナン氏等の指摘する通りである

アメリカに於けるフリイドリヒ・リスト

山田正夫

Friedrich List が歐羅巴を逐はれて合衆國に渡つたのは一八二五年であつた。

愛國と愛鄕の熱情に燃えた「Schwaben の政治家」List が、心ならずも異邦の地に生活するの餘儀なきに至つたのは、また全く彼の愛國的愛鄕的赤心の餘りに外ならなかつたのである。彼は生地 Rentlugen から政界に乘り出した當初から、Württemberg の疲弊せる政治經濟狀態に對して大膽なる改革案を提唱して、早くも當局の注目する所となつたが、一八二〇年に選擧せられて議會に列なるを得るに至るや、彼は直ちに激烈なる提案を行ひ、更に Reutlingen 選擧民の希望に基く請願書を起草して印刷に附した。事件は彼が家宅搜索を受けて此の印刷物を押收せられ、秩序紊亂の廉を以て起訴せられたるに始まつて、遂に彼は爾後議會に參與すべき權能を否定せられ、一八二二年の判決に依つて十ヶ月の城内禁固と訴訟費用の負擔とを宣告せられて、あらゆる公民權をも剝奪せらるゝに至つた。けれども彼は斯くの如き處刑を屑しとせず、一旦 Württemberg の國境を超え英佛を始め各地を放浪して定住の所と文筆の職とを探したが、その何れをも求めることは出來なかつた。List が渡米の志を懷くに至つたのは此の放浪中 Paris に於いて Lafayette 將軍に接近した折、近く合衆國に招かれて渡航すべき同將軍に、懇切なる同伴の勸誘を受けしにその端を發するものである。

併し彼は故國忘じ難く、政府の自己に對する憎惡もやがて消滅すべき頃であらうと獨り樂觀して一八二四年の三月、再び故國の土を踏んだが、彼の豫想は全然裏切られて直ちに官憲に依つて逮捕せられ、嘗て下された判決に從つて刑の執行を受けることになつたのである。彼は Asperg 城塞に收監せられたが、その監房に在つて常住彼の念頭を離れなかつたのは渡米の同伴を促した Lafayette 將軍の勸告であつた。彼は渡米の意を固めてその裁許を政府に申請したが、刑期了つて翌年の一月漸く彼は旅行券を交附せられて Württemberg を撤退して亞米利加に邁くべき旨を言ひ渡された。そこで彼は既に合衆國に在りし Lafayette 將軍と相通信して再應の勸誘を手にし、旅裝を備へ妻子を携へて「何ものにも替へ難き」故國に別れを告げ、佛蘭西の港 Havre を船出したのである。

一八二五年六月十日 List 一家の便船は New York 港外に錨を下した。航海は一ヶ月半に亘り時に風浪激烈を極めた日もあつたけれども、彼の妻が初め航行に慣れるまで些か苦痛を覺えたるを除いては、一同悉く恙なく、殊に子供等は最も元氣旺盛であつた。即日午後彼は上陸して New York 市に入り、當時 Philadelphia に滯在中であつた Lafayette 將軍に會せんと直ちに同地に向つて出發した。

Lafayette 將軍の訪米はこの時恰も第二回目であつて、國賓として迎へられ全米に凱旋行旅を行ひつゝあつたが（一）List の馳せて參ずるや溫厚なる老將軍は喜んで此の追放者を迎へ其の一行に伴隨することを勸めたので、彼はその厚意を深く感謝して將軍に扈從し、同年九月將軍が歸國するに至るまで共に合衆國各地を歷訪した。斯くの如き旅行は彼が定住せんとする國土の習俗を視察し、當時の社會生活の表裏を詳かに判斷する上に絕好の機會となつたことは勿論、彼はまた將軍を介して先づ Henry Clay と好を通じ、次いでその紹介を受けて Harrison と相交るに至り、漸次に當代一流の政客、例へば John Adams, Jefferson, Madison, Monroe, John Quincy Adams, Webster, John Marshall, Emerson 等と相接近する便宜をも得ることが出來た。

この間に彼が見聞した所に對する感想は彼の備忘錄に記されて居るが、民主政治に對する同情とその初期に於いて既に著しく顯はれてゐた弊害に對する批判とは到る處に示されてゐる。偶〻七月四日の獨立祭に彼は Banker's Hill の祝典に出席し、Rafayette 將軍の臨場に依つて一段の光輝を加へたその光景に接して、亞米利加に入つて最初の印象を深く銘して記して曰く、「兵士は進軍するに何等の誇衒を示さず、秩序整然且つ何物をも恐れざる自由人の態度を示してゐる。君主國に於いては祝祭はすべて君主を中心として行はれるが、此の國に於いてはそは全民擧つて祝賀せられ、幸福と歡樂の微笑はこの日各人の顏面に漾つてゐる。斯の老幼を擧げての欣躍、祝砲の轟き、交代齊發、旗幟　祝賀行列等凡ては予をして吾が帝都を想ひ起さしめる。華奢優雅の點に於いては斯の國縉紳の宴筵は歐羅巴大君主國のそれに及はざるものありとするも、猶ほその饗宴に至つては爾餘の諸國の賜宴のいづれにも見ることの出來ない有益なる觀念の覺破せられ、高貴なる思考の喚起せられて存するを知るのである。……而も歐洲に於ける視察に群集し來るが如き飢餓せる顏色と、無賴の風貌とは一として此處に見出すことを得ない。」と。

又別の手記に曰ふ「斯の國に於いては斬新奇拔のものは何物に依らず瞬時にして攝取せられ、輓

近の發明は悉く採用せられる。舊來の傳統に拘束せらるゝものは一として存することなく、發明なる語の音響は忽ちにして米人の耳目を聳てしめる。全國民に關聯するあらゆる事態は、公共施設、立法、會議を始め休日、新聞紙等に至るまで其の運營の妙を極めて歐人の知見を擴大することは尠くない。然しながら若し各人の個人生活に立ち入つて吾人の考察を逞しうするに於いては、吾人はその無味寂寥なるに一驚を喫せざるを得ないであらう。之全く民主々義の本質に存する所の缺陷に外ならずして、民主々義者は彼等の理想に幻惑せられて遂に之を認識するを得ないのである。君主國に於いては權門勢家は社會に交はつて其の權威を犯されることなく、其の地位は萬人に認定せられてゐるが故に、一旦その榮爵を辭するも這は彼の功績として之に歸屬する。然るに民主國に於いては各人は權利に於いては平等たるに拘らず　猶ほ家格、財產、才幹、職業、身分等の貴賤上下は存して個人の地位に明瞭確乎たるものなく、位階稱號等に依つて識別せらるゝこと無きが爲に、各人の社會上の地位は只彼等の態度行狀に依つて表明せらるゝのみである。」と。

（一）Levasseur, A: Lafayette in America in 1824 and 1825. Vol. II. Philadelphia. 1829.

斯くの如き旅行は元より List 一家に對して何等の收入を齎らすことはなかつた。從つて Lafayette 將軍の歸國するに至るや List は先づ永住の地を決定して生計の途を講ずべき必要に迫られた。彼は合衆國各地を視察して歩いた內 Pennsylvania 州が最も意に適した樣に思はれたので同州に定住せんと欲した。渡米前數年の放浪生活中彼はふと一家が安息の根據とするに足る丈けの不動產を獲たいと考へたことがあつたが、彼は今之を實現しようと諸方に奔走して土地を物色して廻はつた。それにはたとひ繁華な都會とは多少離れても靜閑な場所が好ましいといふ所から、彼は遠く Pittsburg Harmony 等に至るまでも旅行を試みたが容易に希望に合するものを得ることが出來なかつた。只彼はかゝる旅行に依つて益々 Pennsylvania 州の土地と住民とに對する好意を增すのみであつた。

此の當時 Harmony の近郊 Economy には List と同鄉の宗教家 George Rapp が其の徒を率ゐて、後年 Indiana に移つて New Harmony なる名を以て知らるゝに至つた共產植民地の前身 Harmony なる村落を經營して「基督の再來」を待望しつゝあつた。List は一日此の地を訪れた。夜の幕が敬虔なる信徒の住み家を覆はうとした時、晩鐘の音は夕靄を貫いて流れて來た。その響を耳にするや、此の愛國的亡命者は懷鄉の情を禁ずるを得なかつた。彼の手記の中には、「故鄉 Schwabenland と同じ鐘の音が夕を告げ渡つた」と記されてゐる。彼は Rapp の下を訪れて歡迎せられ、集つて來た近隣の男女を交へて夜と共に語り明したが、翌朝には村落を廻つて彼等の營みを視察した。彼に會釋を交はす者は祖國の言葉を以てした。住民は皆新聞に依つて彼の來るを知り、敬意と歡待の意を表はした。彼等の一致協同の精神と、和氣靄々たる結合と、指導者 Rapp の人格思想とは、之等總てを包む濃厚な獨逸の雰圍氣と合して彼の心に訴ふる所深きものがあつたにも拘らず、List は彼等と列を同じうして此の植民地の一員となる意志を持たなかつた。却つて彼は自ら立つて同樣なる村落の建設者たらんと欲したのである。

Harmony 共產植民地の組織に學んで自ら一の植民村落を經營しようとした List の腹案が果して如何なる程度の思索と根據とに基いたものであるかは詳かでない。(二)彼が米國の一政治家に送つた

書翰に依つて察するに、そは家族を有する者を中心とせず、十三歳から十六歳までの少年を二十歳に達するまでその村落に留めて教育と扶養とを全からしめんとする施設であつて、彼は次の樣に說明してゐる。「余もかの施設に於けると等しく、移住者は悉く各自の家事をすべて自ら處理し、日常生活の必需品は衣食に至るまで自ら生產すべしといふ原則を設定する。更に余は何等かの工業、例へば毛布、靴等の製造業を求めて少年植民者に與へ暇時を以て之に從事せしめ、少くも教師に對する報酬を支拂ふと共に植民地の自ら給することを能はざる欲望を滿足せしむるに足る丈けの利潤を擧げしめんと欲する。余自身も亦七時間を勞働に費し五時間を教育に充てる。子弟は之を才能に依つて學術に優れたる者と農工に適したる者との二樣に分つ。前者は將來その欲する職業に就くに至つて、學問を活用すべき機會を失へば技術を活用するを得て困窮に陷ることを免れるであらうし、後者は科學上の智識を必要に應じて攝取して教養全き技術家となることが出來るであらう。斯くの如き施設が成功を收むるに至れば之を模範として各方面に流布傳播せしむべき根底とすることを得る。此處よりして教師は他の同樣なる施設に派遣せられて此の精神を各方面に普及せしむるに至るであらう。」と。

（二）List の植民地計畫に對しては纔かに Häusser: Fr. List's Leben (s. 153-4) に約一頁に亘る記述があるのみで、其の他の傳記には一行の記述をも發見することが出來ない。其の計畫の實現せられざりしは勿論、List 自身も其の後全く之を忘れてしまつた樣である。惟ふに斯くの如きは Harmony 共產村落の視察に依つて刺戟せられた彼の熱情的資性の一時的興奮の露はれに止まるのではなからうか。後年彼は共產主義に對する評論を公にしたことはあつたが、茲に述べた計畫とは何等直接の關係を有するものではない。

十一月五日附を以て List が妻に送つて書翰には、彼は漸く Harrisburg の近郊に意に滿ちた住宅附きの土地十エーカーを購入した旨が記されて居る。その價格は六百二十ターレルで、半額は契約と同時に支拂ひ、殘り半金は翌年になつて拂ひ渡す可き條件であつた。家屋は望樓を備へて廣く、庭園は眼前に展開し、牧地と林とが之に連り、國道に沿うてゐる所は樹木が密生してゐて、その一圓は小丘の上に位したので市街から遙かに展望することが出來た。舊主は直ちに他に移つたので、性急の彼は小兒の如く嬉々として自ら手入れなどに從ひ、數週の後 Philadelphia から一家を伴つて來て此の地を終生の住ひともすべき心であつた。此の時に到るまで彼の妻子は Philadelphia の場末で獨逸人の多く住んでゐる The Nothern Liberties と呼ばれた一劃に小やかな借家をして子供等は米國の學校に通學してゐたのであつたが、新邸に引き移ると共に List は農園の經營を思ひ立ち、米人の農僕を傭ひ、牛十二頭を購入して蔬菜類の栽培を始め、餘暇を以て豫て志せる讀書と思索とに充てることにした。此の農業上の實驗は彼の經濟的觀察に對しては重要な暗示を與へたけれども、その實際に於いては大なる失敗に了つた。元來農業に一遍の經驗だも有せざる彼等が之に依つて生計の途を立てんとするが如きは到底思ひも寄らざることで、List の熱誠を以てしても之のみは如何ともする能はず、作物の賣却の如きも傭人に欺瞞せらるゝ樣な狀態であつた。加ふるに、購入の時には全然氣が付かなかつたが其の家屋が濕地に位してゐた爲めに、同年の冬は甚しい寒氣に惱まされ、翌年の夏季に入ると家人も相次いで熱病に冒される等、災厄は重つたので遂に彼は農園主たること

を斷念して了つた。そこで先づ此の土地と建物とを處分せねばならなかつたが、如何なる價格を以てしても購買者は愚か借地人だも發見するが出來ず、彼は止むことなく之を放棄して、其の利益に於いては甚だ劣るがその危險に於いては遙かに安全なる職業に轉ずるに至つた。

Listは Readingに於いて刊行せらるゝ Der Adler なる獨逸人經營の新聞社に招聘せられて同紙編輯の任に就き、同時に居を此の地に移した。Der Adler は一七九六年に創刊せられ、主に Pennsylvania に在住せる獨逸人間に讀者を有してゐた英字新聞であつたが、List は米國滯留中を通じて其の編輯の局に當り、自ら口にして屢々苦笑せるが如く半解訥澁の英文を弄して社説を執筆したのである。(三) 併し彼の論陣の堂々たると、熱誠の横溢せるとは忽ち識者の注目する所となり、殊に毎週登載せられた世界の政治的事件に對する總括と講評とは大なる賞讃を以て迎へられ、何れも再應印行せられて各地に頒布せられた。斯くの如き名聲を博することが出來たのは勿論 List の才幹の致す所ではあるが、また彼が歐羅巴の政情に對する智識に富み、加ふるに歐米の主腦政客學者等と相識つて廣く通信するを得たるに依る所大なりしは疑の餘地を存せぬ。かくて Adler 紙の聲價も頓に加はり、Berks County Bible なる稱を得て合衆國の各方面に重視せらるゝに至り、就中、米國經濟政策、財政問題、海陸運輸交通、教育問題等に對する論説の如きは貴重なる貢獻として賞揚せられ、List は新聞記者最高代表者の一人として指を屈せらるゝの權威を獲るに至つた。而して此の間に彼が直面した幾多の政治、經濟、社會上の問題が彼の知見を擴張し研究を助長する上に與つて大なる影響を及ぼしたことは、吾人の注目を忽がせにする能はざる所である。

(三) 一八二五年から三一年に至るまでの Adler 紙の全部は Reading の Berks County Historical Society の圖書館、及び Massachusetts 州 Worcester に存する American Antiquarian Society の圖書館に所藏せられてゐる。

當時米國の政治經濟上に漸く白熱化し來らんとしつゝあつた一大問題は自由貿易對保護貿易の是非に關する論爭であつた。

一本の馬蹄釘も植民地に於いて製造することなからしめよとの William Pitt の植民地政策は、合衆國建國以來の英國の强壓政策であつて、之が爲めに合衆國は專ら農業を事とし原料品以外のものは悉くその供給を本國の産業に仰がざる可からざるの義務を擔ひ、やがて其の撤廢せられたる後に於いても當時の經濟狀態は事實上米國の産業貿易に何等の變革をも齎らすには至らなかつた。一七九二年時の大藏秘書官 Alexander Hamilton は彼の著名なる Report on the Subject of Manufactures に於いて、一時的保護の政策こそ歐洲諸國の關稅制度に對して合衆國が將に執るべき當然の自衛策なることを主張し、後の保護論者に依つて提唱せられた保護政策の二大論據を明快に説述して國內市場發展の緊要と幼稚工業進捗の刻急とを提言したが、關稅は依然として甚だ低率に止まり自由主義は滔々として當代の政界を風靡して居た。然るに一八〇八年並びに翌年の通商禁止に關する條令と、(四)引續く對英戰爭とに依つて合衆國は歐羅巴と貿易の途を絶たれ、國內工業は之が爲に必然的に促されて急遽隆興の緒に就くを得て、一時は全く完全なる保護政策の下に在ると等しき實狀を呈したのであつたが、斯くの如きは畢竟一時的特殊現象に止まり、奈翁戰爭の終結を告げ英米平和條約の締結を見るに至るや、かゝる保護的作用も當然その影を止めず、低廉なる英國工業品は直ちに

流入し來つて戰時辛うじて勃興した諸工業は今や競爭場裡の激浪に一掃せられんとするの危殆に頻するに至つた。然るに一八一九年に及び土地投機熱の横行と通貨制度の紊亂とは相重つて恐慌を招來し、加ふるに同年歐洲に於ける大豐作は英國穀物條令の制定に相伴つて米國農產物に對する需要の激減を來し、在來甚だ有利の地位に在りし農業の利益は漸く動搖を致して內國販路の擴張を切實に感得するの徒を生ずる一方、新興工業の維持經營に苦しみつゝある企業家は愈〻聲を高くして關稅率の低きに過ぐることを訴へた。斯の貿易政策上の主張は米國の地方的利益の相違に彩られて當時の中部並びに西部諸州は專ら保護を要求し、之に對して南部諸州及び New England 地方は自由主義の主張に一貫せんとする勢を示したのであつた。

一八二四年に至つて關稅率は漸く保護的色彩の顯著なるを示し、中部並びに西部諸州の產業はその恩惠に浴することになつたけれどもひとり羊毛品のみに對しては保護の主眼は專ら羊毛採取者の利益を圖らんとするに止まり、羊毛製造品に對する稅率の引上げと同時に原料羊毛の稅率も引上げられた爲に同年英國羊毛輸入稅率の激限に伴つて Yorkshire 羊毛品製造業者はその製品販賣の上に價格の引き下げを行ふを餘儀なくせられ、米國羊毛工業の發展上一大障壁を築かれたるに等しき狀態に陷つた。爾來羊毛工業の保護運動は年と共に猛烈の度を加へ、遂に一八二七年に至つて提出せられた羊毛法案が僅々一票の差を以て葬り去らるゝの悲運に遭遇するや、彼等の保護運動は全國の保護主張の潮流と合一して其の勢を增し、自由と保護の論爭は新なる激情の下に一段の異彩を加ふるに至つたのである。(五)討論會は相次いで開催せられ、新聞紙は輿論を激動し、小冊子は無數に頒布せられて、合衆國は全民擧つて關稅問題に熱中したが、此の間に在つては有力なる議論を提げ、論著を社會に送り衆論を導いて嚴然保護運動の渦中に牛耳を執るの地位を占めたる結社に Pennsylvania Society for the Promotion of Manufactures and Mechanic Arts. なる一協會があつた。(六)

當時此の協會は、米國經濟學の祖として知らるゝ Henry C. Carey の父 Mathew Carey を會長に戴き、Charles Jared Ingersoll を副會長とし、その下に Peter Duponceau, Redwood Fisher, Hezekiah Niles 等有爲の士を擁してゐたが、協會の出版物を殆と獨り執筆してゐたのは會長 Carey で、而も彼は既に七十に近い老齡に達してゐてその筆致に往年の活氣を留めてゐなかつた。そこで Ingersoll 等は謀つて今將に沸騰しつゝある大論戰の先陣に現はれて能く輿論の目標を提示するを得べき精氣峻銳の鬪士を求め、遂に List の了解を得てその援助を受くることになつた。(七)

(四) Embargo Act 1808, Non-Intercourse Act 1809.

(五) Taussig, F. W.: Traiff History of the United States. Fifth edition. New York. 1910. Chapter I. and. II. esp. P. 68-84.

(六) 此の協會は始め Alexander Hamilton に依つて Philadelphia Society for the Promotion of National Industry なる名稱の下に創立せられ、その本部を Philadelphia に有して保護運動上の一機關となつてゐたが、當時の活動の中心は Pennsylvania に存せしものゝ如くである。

(七) Ingelsoll は Philadelphia の有力家で、既に List が同地に赴いた折個人的に相面接し彼の才幹に感動してゐた。

當時各大學に依つて政治經濟の教科書として採用せられてゐた書籍は、その頃 Colombia 大學の總長であつた Thomas Cooper が一八二六年に出版した Lectures of Political Economy であつて、

その主旨は正統派流の自由主義禮讃に終始したものであつたから、自由貿易論者は之を以て彼等の唯一の論據となし頻りに之を賞揚した。Ingersoll は先づその理論を打破して保護論のために堅牢なる基礎を確立するの緊要なるを感じたが、恰かもよし List が正統學派に對して全然相反する意見を有することを知つたので彼に勸めて Cooper 反駁論を公にせんことを促した。List も自己の思索と研究とに基いてその立場を明かにしようと欲したので、未熟なる英文よりは獨文に依つて秩序ある著述を企てようといふ意を洩らしたが、Ingersoll は此の際寧ろ直ちに衆論の憑據ともなすべき論說を新聞紙上に發表するの望ましきことを力說し、彼に懇請して抵げて英文を用ゆべきことを促したので、遂に List は公開狀の形式を以てその執筆に當ることを承諾した。彼は直ちに筆を染めて前後十二通の自由主義駁論を草したが、その最後の書狀の日附とせられた七月三十日はまた保護運動の上に記憶せらるべき國民公會の開會せられた當日であつた。

全米の保護論者を擧げて國民公會を開催し新關稅制度の制定に對する具體案を作成して之を政府に建策すべしとの主張は、Pennsylvania Society が數年來抱懷してゐた所の宿志であつたが、保護の旗幟の下に馳せ參せる諸州も亦その計畫を耳にして之が實現を希望するの意あることを示したので、遂に一八二七年七月三十日を期して國民公會は Pennsylvania 州の主府 Harrisburg に開催せらるゝ運びに至つたのである。(八)その會期は五日間に亘り、來り會する者は十四州より派遣せられた代表委員九十五名を算し、羊毛採取者を筆頭に製造工業者の數最も多く、M. Carey, Niles 等も進んでその內に加はり、Ingersoll は推されて議長の椅子を占めた。彼等の決議は元より一層の保護政策を速行せんとするに終始し、先づ議會に建議書を提出してその主張の貫徹を期し、具體案としては各種羊毛製品、鐵、麻其他諸種の品目に對する關稅率の引上を要求し、Niles は筆を執つて國民に對する陳情書を作成公布して彼等の立場を闡明せんとした。List も其の討議の席に列なつたが、彼は代表委員の資格を以てせず、Ingersoll に對する顧問として斡旋に勤めたのであつた。Ingersoll は彼に對する私狀に於いてその勞を謝すると共に彼が Representative Hall に於いて代表委員に向つて行つた一場の演說を賞讃した。後 List は Pennsylvania Society 會員の前に行つた講演の中に此の國民公會に就いて次の如く述べてゐる。「先き頃余等は吾が合衆國に於いて、高遠なる理想と英斷なる幹能とを具有せる卿等協會の發議に動かされて、其の數十四州の人士が夫々各自の州に於いて相集會し相凝議し、而して最後に國民公會の下にその悉くを相會して合衆國當面の製造工業恭徽の由因を尋ね、其の對案を講じたる一大現象に直面した。諸君、余は此の間の事情に顧みて之を吾が合衆國に於ける新時代の呱々、國民組織の生誕の日なりと觀察したいと思ふ。敢て、大政治家、大學者並びに賢明なる立法者等が既に久しき以前之が根本的原則を表明し以て施政立法の事に當りたる事實を茲に否定し去らんと欲するものではないが、全國民擧つて此の問題に熱中專念し、國家工業不振の眞因を探求して其の進捗を劃策せんとの特殊の目的の爲に代表者を擧げて相會議せんとするが如きは、未だ嘗て一遍だも見る能はざりし所である。寔に此の公會は一般人民の名に於いて經濟的獨立の宣言を世に問へるものである。幾多の商議聚會が夫々自黨の目的の爲に開催せられたる後に始めて、あらゆる黨派の人士より成立し而も斯の國の福祉增進てふ唯一の目標の爲に邁進する國民

公開は開催せらるゝに至つたのである。何等の黨派心に出づる聲を聽かざりしと共に、その能力の發揚せられ、その討論の闘はされ、その理想の啓明せられ、尊重すべき經驗の蓄積せらるゝこと如何に大なるものであつたらう。而も諸君、就中余をして三嘆惜く能はざらしむるものは、反對偏執の意見を有せる徒に對する卿等が同胞愛と寛容との高貴大度の精神である。此の永久に記憶すべき公會の裡に饒多に示されたる彼等の狹隘なる偏見と皮相の我利とを條理を正しうして融和せしめんとする卿等が意衷である。諸君、卿等の偉大なる祖先が依て以て國民的獨立を確保せる土に成功せると正に同一なる此の高潔なる卿等の態度こそ、より内部に於ける紛訌と外部よりする壓迫とに惱まさるゝことありとも、必ずや尊崇すべき彼等祖先の後裔たる卿等をして經濟上の獨立を獲得するに成功せしむべきものなることは吾輩の信じて疑はざる所である。條理と眞の愛國心と、牢たる政策と叡智とは之れすべて卿等の上に存す。」と。Harrisburg 國民公會が合衆國全般に亘つて喚起せる大いなる感興は實に想像の外であつて、大新聞は悉くその議事の詳細を報道し、關稅問題は彌が上にも人氣の焦點となつたのであつたが、此の時を逸せず List の自由主義に對する大駁論は Philadelphia National Journal 紙を通じて公表せられたのである。

（八）Proceedings of the General Convention of Agriculturists and Others Friendly to the Encouragement and Support of the Domestic Industry of the United States. p. 76 ff.

List が Ingersoll に宛てたる公開狀の形式に於いて起草した自由主義に對する激烈なる抗論は The American System なる題を以て八月十八日に第一通を發表せるを始とし、逐次登載せられて九月二十七日に最後の第十二通を終り、關稅討論の上に再び大なる動搖を卷き起した。保護を標榜する政治家、論客から賞讃の手紙が List の元に集まつて來た。その公開狀を轉載する新聞紙は全國を通じてその數五十を超えた。その反響は曾に保護論者の上のみに止まらずして自由主義の論陣も之が爲めに壓倒を蒙り、New York Post 紙が之に對抗して八月二十二、二十五並びに九月十六日に掲載した猛烈な抗辯を始め、諸反對新聞の論說は何れもその步調混亂の體を示したか　も彼の所論の威力大なりしを以て此の公開狀は纒めて小冊子として出版せられることになつた。之即ち List が後年の代表的名著とし有名なる Das Nationale System der Politischen Oekonomie. の稿本と指稱せらるゝ Outlines of American Political Economy in a Series of Letters addressed by Friedrich List Esq, Late Professor of Political Economy at the University of Tubingen in Germany to Chailes J. Ingersoll Esq. etc. etc. Philadelphia 1827 である。（九）その各方面より爭ひ購讀せられたるは言を俟たぬが、讀者の一人として彼に激勵の書狀を寄せた者に當時の大藏秘書官 Richard Rush があつた。彼は一八二三年の候米國大使の任を帶びて London に駐在してゐた折 List と相識るに及んだが、始め公開狀が新聞紙上に公表せられた時その一二を手にして之が論旨に感動する所あり、今又綜合せらて刊行さるゝに至り直ちに通讀して啓發せらるゝこと少からず、その趣を書いて彼に謝意を送つたのであつた。（一〇）後年彼が議會に提出した年報の中に保護政策に言及して「吾が國法は農業に對する保護を主張するものなるを以て、少く共同程度の保護は之を工業にも加ふる」の要あることを力說して自由主義反對の氣勢を示したるは、（一一）明かに List の言說に動かされたる所大なりと言ふこと

が出來る。

何れにしても此の小冊子は殆と何人も豫期する能はざりし大なる反響を各方面に及ぼして、List 自身の名聲を隆ならしむるに至れるは元より、Pennsylvania Society の名も愈〻高まり保護の主張に對する論據を確立せる功績を賞揚せられたので、協會員は悉く大いに之を喜ぶと共に List を德として彼の功勞を表彰しその盡瘁に酬ゐようと、十一月三日に彼を主賓とする饗宴を Philadelphia なる Mansion House に催した。(二二) 當時の習俗に從つて乾杯の祝辭なるものが、行はれたがその番組は十八番の多きに上り、之に加ふるに更に十八番の祝辭は有志者の飛び入りに依つて行はれ盛會の極みであつた。或る者は國家工業樹立に盡力せる Alexander Hamilton と Richard Rush との爲に乾杯した。Mathew Carey は「Adam Smith の理論に從へば『國內市場』即ち農產物に對する最善の市場』を提供する所の國內工業の保護を極力主張した Henry Clay」の爲に乾杯して、その引用の奇智に依つて大喝采を博した。又何人かは「May this society be never List-less of their true interests.」と洒落を吐いて滿場を啞然たらしめたが、斯くの如き辛辣な冗言は其の發言者に對して些か疑懼を挾ましむる廉ありとて集會は早く閉ぢられた。然しその一日は和氣衷心より出づる祝宴に費されたのであつた。席上 List 自身も亦一場の演說を試みたが、彼は先づ Philadelphia 市並に Philadelphia Society の爲に祝杯を擧げて「本市は遂に New York 市の商業的繁榮を享くること能はざるべしと雖も、國內工業の旗幟はやがて必ず之を把握すべく、吾が愛國的協會はその讃嘆すべき熱誠を擧げて全國を鼓舞指導するに至るべきことを祈る」旨を述べ、次いでその獨逸訛りの辯舌にしては不相應の雄辯を振つて嚮に公にした公開狀の內に披瀝せる主張の由因を說き、Adam Smith 流の假疑的世界主義の蒙を啓き個人主義の弊を除いて、只枝葉にのみ携はつて事の根底を看過せる彼等の學說を「科學の Westminster Abby」に葬り去らんと欲する彼の本意を訴へた。曰く、此の國は單なる空名と迂遠なる學理とに欺瞞せられてその繁榮を犧牲としてはならぬ。實にや卿等の父祖は、かの Rousseau, Voltaire, Montesquieu を始め著名なる英國の哲學者等が聲を揃へて、民主政體如きは只一都邑若くは一小地劃に於いて實現するを得るに止まるといふ見解に一致せるにも係らず、敢然として之を否定し、一大民主政治を、共和國なる一全組織を確立したのではないか。然り、彼等は之に驚嘆すべき大成功を收め、大哲學者等の紙上の學理は卿等が父祖の常識の前に消散し、彼等の裔孫たる卿等は今や古き公理を覆へし民主政治は唯これ大國民に於いてのみ可能なりと天下に公言するを得るに至つたではないか。卿等は現に卿等の祖先が踏みしと將に同一の道程に立つて、卿等自身の常識もて獨自の經濟組織を建設し、以て外國經濟學の理論を打破すべき時に臨んでゐる。此の目的の貫徹の前には、常住嚇々たる虛名の下に隱るゝ空理謬論の內に徘徊せるパリサイ宗徒の後援も、當代の神學者の輔導をも必要としない。吾等の要求するものは只全國民の協力のみである。吾等は彼等に語るに彼等自身の言語を以てしよう。然らば彼等は吾等の意を酌んで、答ふるにまた彼等は意を以てするであらう。」と。かくて保護政策は經濟的獨立を獲得するが爲に要求せらるゝのである。而して彼が之に加へて提議せる米國實業家の國民的團體形成に依つて各州の立法上の要求を刻々國會に提出すべきことの要求と、商業教育振興の爲にする商業學校設立の須要との二箇條は、特

に吾人の注目を促すもので、之に依つて此の慰勞の宴はまた政治的意義を帶びるに至つた。

（九）此の小册子は詳しく言へば第一より第八までの公開狀を含む四十頁のものと、第九より第十一に至る三通を含む十三頁の Appendix to the Outlines of American Political Economy in three additional Letters. etc. etc. とより成り、前者には出版者が Jefferson と Madison の書翰を添加してある。而して最後の第十二通目の公開狀は如何なる理由に依るか、恐らく看過せられたと言はれてゐるが全然收錄に洩れてゐる。此の二書は下に記す List の祝賀會に於ける演說を含有する Account of the Dinner given to Professor List. なる册子と共に稀書に屬してゐるが、その複刻は Hirst. M. E: Life of Fr. List. London 1909 に收められ、その獨譯は Curt, K: Problematisches zu Fr. List. Leipzig. 1908. に載せられてゐる。更に Outlines に收められなかつた一通は Weltwirtschaftliches Archiv. 1925 に複刻せられた。

（一〇）List-Archiv in Reutlingen. Weltwirschafliches Archiv. 1925.

（一一）Labor Cyclopedia of Political Science. Article "Tariffs" 猶ほ下の一八二八年議會に關する項參照。

（一二）Account of the Dinner given to Professor List by the Pennsylvania Society for the Encouragement of Manufactures and the Mechanic Arts, at Mansion House, Philadelphia, November 3, 1827. 本書の内 List の演說の一部分は Hirst: Life of Fr. List の内に複刻せられてゐる。

Pennsylvania Society は更に List に對する敬意を表せんとの意嚮を以て十一月二十一日の委員會に於いて下の如き決議を行つた。「本協會の解する所を以てすれば、合衆國の重且つ大なる利益は正しき政治經濟學理論の十分に行き亘らざるが爲に窮境に沒落して今猶ほその内に呻吟しつゝある。American System に對する反對黨は、その理論に於いてはよし如何ほど堅實なりとするも、之を經驗に徵する時は現代の世界貿易上に全然適用することの不可能な Smith, Say の徒の不當の準則を盛んに流布せしめんと努力しつゝある。而して Frederick List 教授は政治經濟學上に甚深の蘊奥を極められ、在來斯學の神秘として閉されたる謬想を一掃し、偏見を驅逐し、新規徹底せる原理を啓發して國民の前に示教せられた、本協會は List 教授が更に此の新規徹底の見解を傾倒せられて速かに學校に於て教授の用に充つべき要綱と、並びに詳細を盡してその學理を論證せる大著とを公にせられんことを渴望する。以上の理由を以て本協會は茲に次の決議を行ふ。第一項、本協會は List 教授に懇請して、學校用教科書と並びに特に合衆國に於ける狀態に適應せる政治經濟學の明微なる述作とを執筆上梓せられんことを勸告する。第二項、本協會は List 教授を合衆國々會議員、Pennsylvania 州立法院其の他の立法團體部員、大學及び公的學術研究所、並びに我が國民に紹介して、この貴重なる目的の達成のために廣くその援助を利用せしめる。第三項、本協會はこの兩著各々五十部を豫約すると同時に、團體的に若くは個人的に全力を盡して百方之が購讀者を求め、あらゆる手段を講じて此の推賞すべき計畫上 List 教授を援助せんことを期する」。云々。そこで彼は新著の腹案に着手し、また協會の委囑を受けて新關稅制度論に對して抗議せる幾多の刊行物、國會建議書若くは講演等に對する回答の作成に當つた。一八二七年 Boston 市に於て版行せられた所謂 Boston Report なる名を以て著名なる Report of a Committee of the Citizens of Boston and Vicinity opposed to a further Increase in Duties on Importations. は自由主義の見地を固守し、List を指して「American System の代辯者中最も學植ある一人」にして、「反對理由を揑造するの才能に依つて高名を博せる反對黨の著述家」なりと稱したが、Ingersoll の要求に依つて List はその回答を執筆し無名を以て Review of the Report of a Committee of the Citizens of Boston and Vicinity Opposed to a Fur-

ther Increase of Duties on Importtations. なる小冊子として協會から出版した。(一三)

(一二) Boston Report に對する回答文は通例 Examination of Boston Report として知られ Mathew Carey の筆になるものと推定せられてゐる。併し Hirst は考證して之を List の作であると斷定した、何となれば、Rentlingen に保存せられてゐる List に對して寄せられた Ingersoll の書狀の中、筆者不明なる一通に「余は君が Boston 建白書に對する回答を發表されるとの由を喜ばしく思ふ該書は論旨甚だ頑强であるから、冷靜甚深且つ決斷的答辯を要するであらう。」と記されてゐるが、この發信人は Hirst に從へば恐らく M. Carey に相違ない。而して List 自身もまた Boston Report に對する自分の回答は關稅問題に對する貢獻の一であると言明したといふ。(Hirst, p. 47.) 又 Taussig も Hirst の質疑に答へて此の Examination of Boston Report は M. Carey とは全く別人の手に成るものゝ如く、少くともその全部を彼の筆に依るものとは斷定することが出來ない旨を敎へてゐる。(Hirst, p. 47-8. n.) 果して然らば上掲 Review of the Report etc. なる Boston Report に對する回答文は、此の Examination なる册子と同一のものであるか、若くは全然別個のものであるか、本稿執筆の日まで遂に詳かにする暇を有しなかつた。讀者の高敎を請ふ次第である。Review etc. なる著は Notz. W: Fr. List in America. Amer. Econ. Rev. June. 1926. に擧げられたもので、上述の部分はしばらく此の論文に從つて記したものである。

一八二八年の大統領選擧を期として關稅討論の舞臺は Washington に移つた而して今や保護と自由との對立は政治的色彩を交へて、單に在來の如き地方的利害の衝突のみに止まらず、John Quincy Adams の與黨が西部を代表して保護主義に終始せるに對し、Andrew Jackson 黨は關稅引上に反對する南部と保護の主張を替へざる北部とを包含せるが爲めに、政爭の裏面には幾多の術數と詭計とが廻らされた。(一四) 此の時 List はその編輯せる Adler 紙を通じて Jackson に與し Pennsylvania なる一樞要地區を Jackson の與黨に加へんとその機關として奔走した只此の紛糾せる政爭に依つて Pennsylvania Society はその所期の目的の變動を來し前途に對する一味の暗雲を招來せるが如き地位に陷り、四月十六日同協會秘書 Redwood Fisher は、現狀より推すに同年の議會に於いては到底希望せる關稅法案の制定を見る能はざる可しとの悲觀說を List に洩らした。併しながら事實は之に反して議會は農產物並びに工業に對する一般的保護を提議し、特に羊毛及び羊毛品に對しては新關稅を要求して羊毛品如きは事實保護關稅と異る所なき重率を課せんとの提案を行つた。而も之全く大藏秘書官 Rush が Harrisburg 國民公會と List の所說とに依つて動かされたる結果に外ならなかつたのである。Committee of Wages and Means. は斯くの如き提議に激昂して直ちに長文の報告書を呈出し、議會は關稅問題の討論が大いに沸騰したが、Harrisburg 國民公會は元より M. Carey. Niles 等の姓名も反對黨の齒牙に掛けられて罵詈の對象となつた。此の時 List を擧げて毒舌に上せたのは South Carolina の代議士 McDuffie なる者で、彼は嘗て List が Pennsylvania 州立法院に於いて行へる講演の速記を新聞紙上に於いて讀み甚だしく之を疾視しつゝあつたが、議會に其の速記文を携へ來つて曰く、「茲に先頃 Harrisburg 國民公會の一員に依つて亞米利加公衆に紹介せられたる國民經濟學及び巫術の一獨人敎授がある。Harrisburg 陳情書に就いて說明を行ふに最も優秀なる才能を具有せる者としては彼を他にしては外に何人も在せざることは余の確信する所である。今姑く List 敎授が Pennsylvania 代議院に於いて講演せる所言に聽くに、曰く『若し此の國にしてよく佛蘭西の如く其の製造工業を發達せしむる上に成功を收めんか、Pennsylvania の土地は一エーカー當り七弗より五十六弗に、換言すれば二千一百萬弗より二億四百六十萬弗に增進して、將に一億

八千三百六十萬弗の增額を示すであらう。此の額は利率六パーセントとして一千一百萬弗の利子を生じ、更に此の利子に對する利子は六十五萬弗に達して猶ほ優に吾人が現在外國貨物を消費するの額に餘あるのである。故に安價なる製造品を買ふことのみを以て農民の眞の利益なるが如く考へてはならない。彼等の生產物の價値を增進すること、就中彼等の土地の價値を增殖することこそ眞の利益である。從つて商賣人の口にするが如き安價品の購入は宜しくない。否事實は之に反して若し彼等にして土地生產物の交換を行ふこと能はざるに至れば安價なるは即ち惡に均しい。故に斷じていふ。最も惡しきは彼等の貨物を何物とも交換する能はざるに在りと。何となれば斯くては英人は米人に、只米人が製造を行へば獲得するを得べき利子額に對する利子のみを補償するに過ぎざるが故である。』と。六十五萬弗の外國商品を驅逐し、內國代替品に對して高價を支拂ひ斯くて國民の富に附加せる一億八千三百六十萬弗の增加なるものは、之將に租稅の力を藉らず只複利てふ數學の力に依賴して英國外債を償却すべしとの周知の計劃の更に一段上を行くものである。‥‥‥ List 敎授は疑も無く嘗て獨逸を風靡せる鍊金術士の嫡流である。而して余は Harrisburg 國民公會が豫て要求しつゝありし所望を、哲學者の石の發見者たらんとする List 敎授を獲得せることに依つて滿すを得たるに對し、滿腔の慶賀を表せざるを得ざるものである。」と。（一五）又更に McDuffie は Harrisburg 國民公會より提出せる建議書を以て List の手に成れるものなりとの獨斷を下し、その一節を引いて文體を嘲笑し、「Harrisburg 國民公會は政治經濟學の敎授を必要とするよりも修辭學の敎授を必要とすること猶一層大である。‥‥‥此の建議案の執筆者は只設計家の手中に存する用器に異らずして American System の政治經濟的關係に何等の了解を持つてゐない。」と揶揄した。（一六）彼の同僚 Hamilton は奇警の言を吐いて言つた、「吾々は American System の原則に違反して、Adam Smith の愚蒙と David Ricardo の偏想とを說服せしめるために一敎授を獨逸から輸入してしまつた。」と。（一七）

議會に於いて斯く討論が喧しくなつた時に、此の問題に對する投票の行はれざるに先立つて Pennsylvania Society は其の立場を再應闡明するの緊要なるを感じ、先きに Committee of Wages and Means に依つて呈出せられた建白書に對する公開答狀を發表しようと、Ingersoll は List に要求してその執筆を乞ひ、協會の名を以て Observations on the Report of the Committee of Wages and Means. なる一書を公にした。而して投票の結果議案は兩院を通過し、元老院の協讃をも獲得するに至つたが、之即ち Tariff of Abominations として知らるゝ法令である。

（一四）Taussig: Tariff History of the United States. p. 84-108.

（一五）Congressional Debates. Vol iv. p. 2394. cited by Hirst. p. 51-2.

（一六）Congr. Debates. p. 2391.

（一七）op. cit. p. 2431.

其の後幾もなく List は自ら關稅運動の陣頭に立つて南部諸州に臨みその注目を惹いたことがあつた。Virginia 知事 W. B. Giles は嘗て彼の著名なる Outlines of American Political Economy を手にして其の論旨に對して不平措く能はず、その忿怒を晴さんと Constitutional Whig 紙に書狀を寄

せ、List を罵つて Metternich 伯爵流の經濟論者であつて現在歐羅巴の政治的舞臺に於いて最も古色蒼然たる非自由、冷刻無情頑迷極まる所論を捧持するものであると言つた。之に對する List の公開答狀は南部の諸大新聞に掲載せられたが、その内に於いて List は過去の經歷を詳細に縷述し、自己を擧げて Metternich の徒弟と指稱するの全然妄想なることを說き、Gilles の所論に散見する誤解を一々訂正し、Washington 並びに Madison の所言を擧げて彼等が或は「熱烈なる政府の先づ以て果すべき任務は國内工業の促進なることに讃成」し（Washington）、或は「干涉に依つて吾が製造工業を保護する」に吝ならざりし（Madison）を指適して、如何に「諸君等の著名なる同胞が諸君の今日に於けると全然相反せる言動を致せる」やを明かにした。彼の熾烈なる資性に出づる激論は、常に反對論者のために疾視指彈の對象となつたけれども、其の主張する所は、南部産の木棉、煙草の工業促進を高唱し、之に依つて合衆國をして佛蘭西産葡萄酒並びに絹物の輸入に對してこれ等の貨物の販路を獲得せしめんとの主旨に出づるものであつて、彼が此の國を思ふ衷情と熱誠とに至つては、如何に强硬なる反對論者たりとも彼に對して一片の謝意を表せざるを得なかつたのである。

斯くの如き政治運動の旁ら List は Pennsylvania Society の決議を以て勸告せられた經濟學の著述に臨んだが、彼は强い自信と樂觀的抱負とから未だその著述に著手せざるに先立つて逸早く一八二七年十二月二十二日に愈〻起草に從ふ可き著述に關する尨大なる廣告を發表した。その全文の劈頭には先づ Pennsylvania Society の決議文を堂々載錄し、次いで新著の表題を記してそは The American Economist, by Frederick List, of Pennsylvania, formerly Professor of Political Economy, and Counsel of the General Society of German System of Political Economy. と命名せらるべく、以て披瀝せんとする論旨は「Adam Smith と Jean Baptist Say とが不明と混亂と矛盾とを以て覆へる此の重要なる學問をして……あらゆる自由の國家に於いて當然然らざる可からざるが如く、眞實且つ徹底、一般且つ實際的たらしめんとする。著者は雷に舊學派の主惱論者若くは此の國の大政治家大學者等が說述したる重要なる理論を紹介せんとするに止まらずして、Napoleon が稱して If an empire were of granite it would be ground to dust by fallowing its precepts. と云へるが如き組織の缺陷と誤謬とを悉く暴露せんと努力する」に在ることを公言した。やがて其の第一章のみプリントの儘配布せられたが、其の題目は Survey of the History of Commerce and Commercial Supremacy と稱し Hanse 同盟並びに英國經濟狀態に關する所論八十頁より成るものであつた。（一八）當時の計畫に從へば全部を八回に分つて刊行し、五弗の代價を以て完成の曉は二卷の書籍に製本せらる可き豫定であつたが、印刷者の下へは其の後遂に一枚の原稿も屆かなかつた。一八三〇年彼が大統領 Jackson に此の仕上刷四十枚に附して送つた書狀の一節に曰ふ、「余が主たる目的は、如何にして、且つ如何なる方法を以て英國は當初 Hanse の植民地たりし狀態より發展して今日世界に冠たる海軍國たり、商業國たり、工業國たるの大を致せるやを示し、かくて米國がその窮極の大目的に到達するが爲には必ず踏襲しなくてはならない道程を明瞭ならしめんとするに存する。第二章に入りては余は更に同樣の方針を以て政治經濟學が De Witte, Stuart 等の昔より Malthus, M'Culloch ……等の今に至れる事情を論述するつもりである。」と。未だ保護對自由の論戰の勝敗決せざる頃であ

つたから、彼の著述が完成するに至つたならば必ずや百方から要求せられて論難讃否の中心ともなるべきは明かなことではあつたが、續稿の現はるゝ日の殆と豫想する能はざるが如き有樣なので Pennsylvania Society は著者を激勵すると同時にその一策として購讀豫約者を募る可く代理者を設置し、應募者の名簿を彼に示して筆硯の進捗を促した 其の氏名の内には M. Carey, Ingersoll 等も列り、Fisher は自ら激勵の書狀を寄せたが、猶ほ著者の筆意は鈍く、Ingersoll は遂に堪え兼ねて原稿が如何なる程度まで進んでゐるかを尋問するに及んだけれども、List からは何等の回答も無かつた。時既に List は文筆に對して在來の熱誠を有しなかつた。彼の興味は最早茲には存せずして他に移つてしまつたのであつた。否、寧ろ彼の境遇が彼をして其の筆を投せしめたのであつた。彼の家計は窮して Duponcean 等が彼に大學教授の職を求めて生活上の憂慮を救はんとせる努力も空しく、Adler 紙編輯の職より受くる僅かの收入を何等かの方法に於いて補はなければならなくなつたのである。乃ち彼自身の言に從へば「政治家と著述家とは合衆國に於いては甚だ不利益なる職業である。之に從はんと志す者は、生來富裕ならざる限り、先づ何等かの企業に依つて其の生計の途を樹立し將來の不安を除いて置かねばならない。余も亦此の公理に從ふの賢明なることを悟つたのである。」（一九）

（一八）此の論述は後年の Nationale System に於ける Erstes Buch, Zweites Kapitel, Die Hansen. 及び Viertes Kapitel, Die Engländer の二章と略同樣の内容を有するものである。その複刻は上掲 Weltwirtschaftliches Archiv に含まれてゐる。

（一九）Fr. List's Gesammelte Schriften. III Theil: Das Nationale System der Politischen Oekonomie, Stuttgart u. Tübingen. 1851. Vorrede. s. xvi.

其の頃恰かも Schuylkill County に於いて無煙炭鑛が發見せられ、之が爲に同地方一帶に炭鑛發見熱が傳播しつゝあつたが、List も屢〻 Berks County に旅行を試みて幸運にも豐富なる一炭層を Little Schuylkill 河の流域 Pottsville を去る東北三十哩の地點 Tamaqua と呼ぶ所に發見したので、直ちに彼は資本家を勸誘して先づ此の炭鑛を包有する附近一帶の土地を購入せしめ、かくて自ら一企業家としての活動を開始し、之に依つて從來の惠まれざりし物質的境遇を開拓せんと欲した。彼は石炭の販路を擴張するには運輸の便を第一に設定しなくてはならぬといふことに着眼した。之より先き同地の近隣に同樣な企業を起した者があつて。Schuylkill 運河から二十哩を隔て、Little Schuylkill 河に並行せる新運河を Tamaqua から Port Clinton まで開鑿する計畫を樹て、一八二六年に立法部の免許を受けて Schuylkill East Branch Navigation Company なる會社を設立したが、其の事業に當るべき人がなかつた爲め何等著手を見るに至らなかつた。List は之を知り會社に勸誘して往年の免許の修正を申請せしめ鐵道布設の許可を受けて一八二八年新に資本金七十萬弗の新會社 Little Schuylkill Navigation Railroad and Coal Company を組織し、Isac Hiester を擧げて社長とし List は自ら副社長の地位に就いて鐵道建設の事業を開始した。

鐵道運輸の便は當時漸く識者の注目を得んとしつゝあつた初期幼稚の時代に屬する。List が始めて實地に之を見聞したのは故國を棄てゝ各地放浪の折柄英國に渡つた一八二三年であつた。Stephenson が機關車の實用に工夫を凝しつゝありしは一八〇九年の候で、鐵道運輸の便が始めて公開せ

られたのは一八二三年 Stockton, Darlington 間を嚆矢とするが、此の年 List の訪英は足跡然〻北方に及ばざるものゝ如く、此の間の記錄は杳として傳はつて居ないけれども、彼の見たのは恐らくは僅々數哩の馬車鐵道に過ぎずして蒸氣機關のことは只之を傳へ聞いた位に止まれるものであらうと云はれてゐる。米國に於いても一八二八年に起工せる Baltimore, Ohio 間の一部 Baltimore より Ellicott's Mill に至る十四哩の竣成開通せる一八三〇年八月を以て鐵道運輸の最初とすべく、而もそは未だ動力に機關を使用せずして當初一年餘りは風力並びに馬力を藉りて運轉したものであつた。List が獨逸に送つた通信の內には交通運輸の頻繁ならざる地には木軌道の方が鐵軌道よりも有利なることを說き、米國技師の意見に徵してその採用を勸めたことさへ在る。(二〇) 斯くの如き狀態であつたから List 自身當時に至るまでは只鐵道の交通上有益なることのみを心に留め、その經濟上の影響と謂へば市場の擴張と價格の低落とを齎らす可しとの一般經濟論者流の考察を懷いてゐたに過ぎなかつたが「今や始めて余は之を目するに生產力の立場よりし、その國民的運輸組織としての綜合的作用を認識し、從つてまた智識上政治上の生活、社交上の交通、一國民の生活力並びにその强大等のすべてに對する影響を觀察するを得るに至つた。今や余は製造工業と國民的運輸組織との間に如何なる相互作用の存するやを確認し、一は他を缺いては必ずや完全なる繁榮を致すこと能はざることを覺つた。斯くて余は此等思索の結果を統一綜合して在來經濟學者の未だ何人も着眼せず、就中全國民的鐵道組織の必需不可缺なるを明察する者なくして英米佛各國の論者の未だ考慮之に及ばず[illegible]」(二一)

一八三一年工事は完了して十一月鐵道は開通し炭鑛開發の便の助長せらるゝと共に、Biddle 兄弟、Stephen Girard を始め Philadelphia の資本家は之に依つて大なる利益を蒙つた。此の鐵道は米國鐵道の發達上最も重要なる役目を果したものであつて、後に Reading 鐵道網の計畫せらるゝやその一部を形成するに至り、又 Philadelphia と Reading とを結合せんとする試みは Little Schuylkill 鐵道の建設に携はつた人士に依つて提唱せられたのであつた。(二二) かくて一八三五年には Pennsylvania 州に於ける鐵道の總延長は三百哩に及ばんとし、一八三九年には New York 市との連絡線が布設せらるゝに至つた。當時著名なる技師 W. F. Roberts が主務局に呈出した報告書に曰ふ「Tamaqua の石炭及び鐵の產地から合衆國の商業中心地に至る直通常設鐵道の開通は、Pennsylvania に對しては同州の大炭鑛に無上の利益を齎らし、New York 市に對しては今や全く必需品の一に加はつた石炭の供給を確實ならしめ、その消費額を年々增加せしむるを得べき現時に於ける最も重要なる施設といはねばならぬ。」と。(二三) List はまた此の鐵道の兩極點に市街を建設せんと會社の所有地を割いて其の敷地に提供したが、幾もなくして Tamaqua と Port Clinton との二市は此の地に勃興し、一八三一年彼の家族が歸歐の途に上るに際して此の地を訪れた時にはなほ數個の村落が兩市の近郊に興つて繁榮に赴きつゝあるを見た。

斯くの如き企業の成功を List は往々自己の創見と活動のみに依るものゝ如く言つてゐるが、また此の會社の創設者たる Hiester の功績を全然無視することは出來ない。只 List が何事に臨んでも捨てなかつた熱情と精勵とを會社の運營に傾倒したことは、事業上の行動、株式配當、若くは設計

等に關する彼の書類に依つて容易に推察することが出來るのであつて、更に彼がその遂行上幾多の難局に當面し、若くは誤解疾視を一身に集めたることもまた當然免れなかつた所である。十一月十八日鐵道開通の祝賀會に於いて社長 Hiester は立つて杯を捧げ、「List 教授のために。彼が無煙炭を歐維巴の市場に紹介せんとする努力は吾人の感謝するに餘ある所である。」との謝辭を篤うし、滿場熱誠を籠めた祝杯が乾されたのであつた。併し List は其の席に姿を現はさなかつた。Hiester は演說して彼は米國無煙炭の販路を拓かんと今將に歐洲を差して船路に上りつゝあることを告げた。

(二〇) Mittheilungen aus Nordamerika von Fr. List. Hamburg. 1829. S. 41.

List: Über ein sächsisches Eisenbahn-System, 1883. s. 59-60.

(二一) Nationale System. op. cit. Vorrede. s. xvi-xvii.

(二二) Hare, J. V: History of the Philadelphia and Reading Railroad. The Pilot. vol. xiii. no. 2. 19·2.

(二三) Abstract of a Report on the Coal and Iron Estates of the Little Schuylkill Navigation Railroad and Coal Company. Philadelphia, 1846.

List は大統領 Jackson の秘書官 Edward Livingstone と友交を重ね 奴隷問題若しくは通商問題などの政治經濟上の事柄に關して相互に意見を交換したことがあつたが、彼は此の友人を通じて Jackson の了解を得て歐維巴派遣の米國外交官の地位を獲得しようといふ野心を懷いてゐた。そこで屢々 Jackson に書を送ると共に一八三〇年九月十三日身を以て Washington に至り同二十三日まで National Hotel に滯在して個人的に彼との面接を求めその抱負を陳開した。猶ほ二十一日附書翰に依つて先づ佛蘭西に赴任を欲する理由を述べ、英國の壓倒的獨占に對する挑戰は依然として之を捨てず政治經濟上の論著の筆を續け、又新しき運輸交通上の發明と改良とは十分に觀察して之を米國に移殖すべき中介の任を負ふと同時に、米佛の通商を促進助長せしめんが爲め先づ第一策として佛國に無煙炭の販路を擴張し、佛國政府をして Havre, Strasburg 間の鐵道建設に著手せしめ獨逸鐵道の發達をも喚起し、かくて獨逸人の米國移住組織を完全ならしむる特殊の目的を極力遂行すべきことを誓つた。米國政府は斯くの如きは實現容易ならざる誇大の言なりとして多くの期待を彼に繫がなかつたが、その合衆國を思ふ赤心と高潔とに動かされて、先づ Paris に赴いて其の計畫を遂行せる上は、Hamburg 領事の任に就く可き約束の下に十一月八日彼に對する任命を發することに決した。

併しながら彼が歸歐の目的は啻に米國の繁榮を希ふの一に止まらずして、彼の心中には彼に取つて遙かに重大なる計畫が存したのである。否、米國政府に披瀝せる如きは寧ろ此の大目的を懷いて先づ歸歐せんとせる彼の一方便に外ならなかつたのである。

List が亞米利加に於いてかくも全力を盡して百方活躍奔命に從へる間にともすればその胸を衝いて彼の忘るゝ能はざりしものが一つあつた。一八二八年十月五日付の彼の書翰に曰く「余は Philadelphia に趨いて圖らずも Hamburger Zeitungen を讀む機會を得た。余が之によつて痛感したことを貴下に傳へることは出來ない。歸宅するや余は直ちに遙かに本國より携へ來り三年の久しき間篋底深く藏して置いた關稅同盟通信を探ね出して通覽した。余が懷舊の情や如何。顧れば當時は希望

華やかなる黄金時代であつた。歸宅後今や六週に及ばんとするが余は米國の業務に手を觸るゝの鋭氣がない。余の常に祖國を離る能はざることは猶ほ不具の子を持ちし母親にも等しい。彼女はその兒の不具なること甚しければ之を愛惜すること更に一層である。あらゆる余の計畫の背後には常に必ず獨逸が存する、獨逸への歸國が存する、歸國して小都小邦の爲に身を捧ぐるが爲には、余は其の勞苦も敢て辭するものではない。」と。斯くの如き愛國の情を彌が上にも炎々たらしめ彼をして歸心矢の如きものあらしめたるは　彼が國民經濟上に於ける鐵道組織の重要を了解せる一事であつた。「青山遠く連る廣原の中に余は獨逸鐵道組織の夢に耽りつゝあつたのである。此の鐵道組織を以て して始めて關税同盟はその効力を完全に發輝せしめ得べきこと最早疑の餘地を存しなかつた。斯く思を廻らす時余は幸福の直央に於いて不安の念の高まり來るを感ぜざるを得なかつた。獨逸の在來の運輸交通組織は今日に至るまで其の文化と人口と産業とに比例して甚だしく劣つてゐたから、將來に對する獨逸財政上並びに國民經濟上の活躍は從つて又一層の大を致さゞる可らざるの必要を有するのである。」

List が米國に於いてその腦裡に描きつゝありし獨逸の國民的鐵道組織に對する懸案は、當時彼が故國の友人に送つた書狀若くは小論文の中に散見することが出來る。(二四) 就中彼は München の人 Josef von Baader と見解符節を合せしが如く、互に頻繁に書狀を往復して或は獨逸の交通運輸に關する資料を各方面に亘つて蒐集し、或は獨逸各地方毎に對して詳細なる鐵道網の計畫を試みたが、それは殆と豫言者的未來觀を以て覆はれたものであつた。(二五) List はその書翰を以て先づ新に發明改良せられつゝある蒸氣機關の威力を述べ、米國に於ける自身の鐵道建設の實驗を詳細に報道して事業上の統計を掲げ、當時獨逸國内に於いて專ら運輸交通の手段として高唱せられつゝありし運河の經濟上鐵道に及ばざる所以を縷述し、鐵道の交通上に於けるは元より生産力の上に對して齎らすべき一大革命の結果を豫想し、海洋に惠まれざる國の産業並びに厚生に對するその影響を考察して獨逸鐵道組織完成の緊切急務なることを力説した。　姑く米國の實狀に顧みよ、New York は New Castle に産出する石炭を燃料とする。Albany の土着民も和蘭製煉瓦を以てその家屋を建造する Philadelphia の住民は南部 Sachsen の砂地に栽培せられたる馬鈴薯を食膳に上す。Savannah に於いては New England の北境に發掘せらるゝ石を以て大厦と記念碑との築造に用ゐる。Pennsylvania の製粉舍の内には遙かに三千哩の遠きより持ち來らされたる石の廻轉に依つて穀物が磨碎せられる。英國に於いては Jersey 産の林檎を食することが出來る。而して余の此の地に斯く筆を握る傍には仏太利産のレモンを置いて渴を醫やし、その産地と相隔つこと卿等より猶ほ三千哩の遠きに在るにも係はらず余の之に支拂ふ代價も猶ほ卿等の支拂ふ所と大なる相違はない。同樣に余はまた Bordeaux の葡萄酒をも飲用することが出來る。斯く觀じ來れば、海運と並んでその安全と迅速とに於いて之に劣らざる陸運の共に確立せる時、全獨逸生産力の增進すること亦斯の如く無限に及ぶべきは明かである。」「そは啻に國民經濟上のみに止らずして財政上にもまた絶大なる利益を齎らすべく、更にそは啻にその着工建設の間のみに止まらず末來永劫、その招來する生産力の增加に依つて浮浪の徒に食物と勞働とを給與し過剩生産物を悉く有用に消費すべき途を開發するに至るのである。」「實に

や人間精神の物質に對する勝利の偉大さよ、聰明有爲懇篤なる治者に對して、死せる自然力を蘇生せしめ、幸福と生活と精神の發展と活動とを覺破するを得しむ可き領域の拓かるゝことの雄大さよ。」獨逸が勞働力と天與の資源と、智識と、學術と咸之を豐富に有するにも係らず未だに遲々としてその繁榮を加へざる何故であらうか。若し夫れ之を瞬時にして强大と繁榮とを致せる亞米利加と比較せんか、兩者の間に天地霄壤の差を認めざるを得ない。飜つてその根因を按ずるに此の地に於いては各人は各自の能力を發揮してその業に當りその結果は直ちに自己に酬ゐらるゝを以て之に從ふに皆興味と熱誠とを保ち得ると共に、共同の福利の爲には富者と智者とが進んで之を指導し國民の榮達を計るに反し、獨逸に於ては全く斯くの如き精神を缺いて政府と國民は背反離乖しすべてを蒙昧滯澁の治者の手に俟たざる可らざるを觀るであらう。「合衆國と雖も、若し凡てを擧げて政府の手に委ねたとしたならば、今現に全うせる所の十分の一をも果すこと能はず、その半の成功をも收めることは出來なかつたであらう。」乃ち獨逸國民の活躍を喚起するの刻急に迫れるを知るべきである。

斯くの如く考察を進め來るとき List は最早私利の爲に營々として亞米利加に止まつては居られなかつた。彼に對する歐洲派遣の任命書が大統領と其の秘書官とに依つて調印せらるゝを待つて、彼は妻子も具せず即刻歐洲航路の便船を求めて合衆國を後にしたのである。

（二四）List の書翰は始め Augsburger Allgemeine Zeitung に掲載せられ、後のものは彼の二友に依つて編纂せられた。Mittheilungen aus Nordamerika von Friedrich List. Herausgegeben von Ernst Weber und E. W. Arnoldi. Hamburg. 1829.

之である。

（二五）Josef von Baader は哲學者 Franz von Baader の弟で、Bayern 政府の官職に就き當時鑛山事務官であつたが、List と共に Ludwig 王の計畫せる Donau-Main 間の運河開鑿に反對し、鐵道に依つて Rhein, Weser の連絡を計り、之に依つて中部獨逸並びに Bayern と北海との運輸交通の便を開かうとの策を廻らした。

List が歐羅巴に歸つてからの消息に就いては、吾人はその記述を後日に讓る。只茲に一言附加すべきは、彼と合衆國との關係は、或は Baden に、或は Leipzig に、或は Stuttgart に、再應轉任はせられたが、彼は領事の職を續けて一八四五年に至るまで保たれたことである。一八三一年に彼はその妻子を歐洲に伴はんが爲に再び大西洋を往復したが、爾來終生歐羅巴に止まつて亞米利加の土を踏むことは無かつた。併し彼は、嘗て大陸の空を追放せられた政治的亡命者を快よく迎へて定住の地と活躍の所とを與へて吳れた此の國の恩惠に對して、機會ある毎に謝意と忠誠とを披瀝することを忘れなかつた。斯くて合衆國は、初期貿易政策の根據を確立して商工業の隆盛を資け、鐵道の範を示して交通網發展の道を暗示せる彼の二大貢獻に加へて、更に歐洲諸國民が米國に對して未だ眞の理解を有せざりし時、彼の親しく接したる見聞と之に對する鋭利なる觀察と民主政體に對する同情とを以て、能く當代の合衆國を英佛獨の新聞雜誌を通じて歐羅巴人の前に紹介した彼の第三の貢獻をも篤く認めねばならない。亡命客として飄泊の身を此の國に委ね、先づ國費に隨從せる旅行家の生活より、轉じて農場主、新聞記者、經濟學者、政治家、企業家を相接いで一身に兼ね、而して最後に外交官として此の國を去るに至るまで、年月に積れば僅かに五年四ヶ月の短きに過ぎぬ

が、Friedrich List の名は永く米國政治經濟史の一隅に止まるべく、彼が不遇の一生を通じて能くその所信を實現し、その成果の顯然として酬ゐらるゝを見たる最も華やかなる時代はまた實に此の合衆國在住中に外ならなかつたのである。

米國在住中に於ける List に關して更に重大なる問題は彼の經濟思想の發達に關する點である。本稿は List 傳中の一編を形成すると共に、此の問題の序說として執筆せるものである。故は List の學說は彼の環境を離れてはその眞義を窺ふと能はざるが爲である。從つて彼の經濟理論の詳細は總てを後の機會に讓つて茲には深く說述しなかつた。

本稿起草に當つて參照した List 傳の主要なるものを左に擧げておく。その長短を相補つて本稿を得たのであるが特殊の點を除いては本文中の引用を省略した。以上讀者の諒恕を乞ふ。

1. Friedrich List's gesammelte Schriften, herausgegeben von Ludwig Häusser, Erster Theil: Friedrich Lists Leben. Stuttgart u. Tübingen. 1850.
2. Das nationale System der Politischen Oekonomie von Friedrich List. Siebente Auflage. Mit einer historischen und kritischen Einleitung von K. Th. Eheberg. Stuttgart. 1883.
3. Jentsch, K: Friedrich List. Berlin. 1901.
4. Hirst, M. E: Life of Friedrich List, and Selections from his Writings. London. 1909.
5. Natz, W: Friedrich List in America. Sonderabdruck aus Weltwirtschaftliches Archive. Jena. 1925. In English: Friedrich List in America. The American Economic Review. Vol. xvi, No. June. 1926.

黑正嚴著　農業共產制史論

人類が原始的群生活から農業または漁業の生產方法を修得して、一定地に居住するに至つてから、社會生活としての特徵が大なるに至つたことは、異論のないところである。勿論人類進化論は、數十萬年の古昔に人類の社會的生活の痕跡の存在するを敎へるのであるが、これらの現象は主として人類學の對象であつて、社會史、經濟史の研究對象とは、未だなつてゐない。社會史、經濟史の研究對象は、人類が國家と稱する統治機關を創造する直前の社會以後の社會生活である。

この國家形成直前の社會生活の形態は如何なりしやの問題は國家または社會を研究の對象とする社會哲學者の興味を惹いてゐた。近世英國の政治哲學者トオマス・ホッブスはこの社會を以て、萬人に對する萬人の鬪爭の社會とし、この社會的鬪爭を除去する手段として人類は契約による國家を形成したと主張した。原始社會に關する知識の不足してゐた時代の想像として、また社會契約說の思辯的根據としては便宜のものであつた。而してまた古代からの共產主義者は、原始社會の共產制への復歸を主張する者が多いが、これらの思想家の論ずるところは確固たる事實にその基礎を置いたものではなかつた。

「農耕をその社會の主要なる經濟形態とする時代において、然かもその社會の最も有力且つ必要なる生產手段であり、勞働手段である所の土地が、一私人又は一家族の永久的專有に屬することなく、常該社會の構成員は只單に一定の期間、一定の土地の班給を受け、之を使用收益して經濟を營む所